



Wolters  
Kluwer

CCH® Tagetik



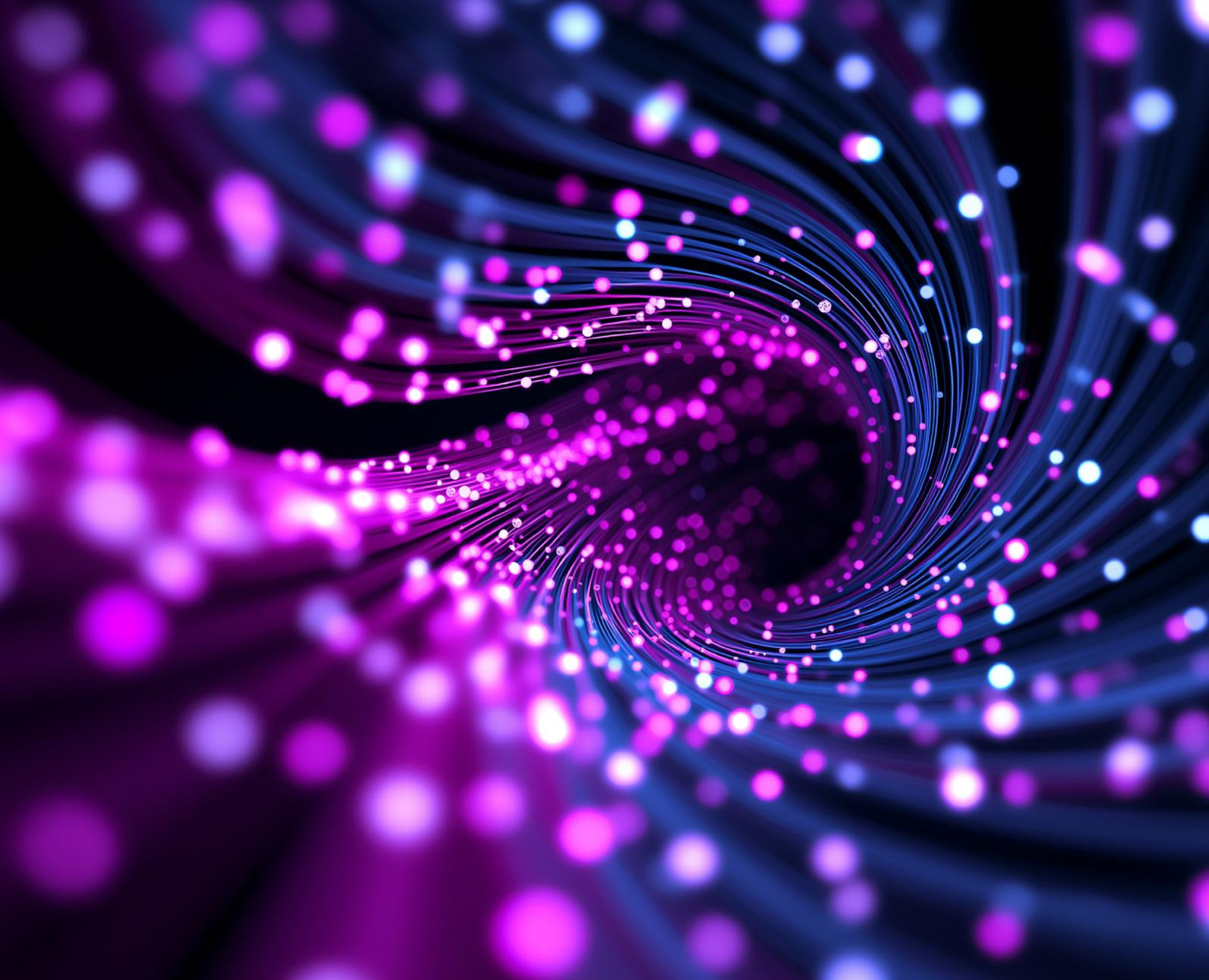
---

*Whitepaper*

# CCH Tagetik Intelligent Platform - Expert AI 搭載 -

経営管理・分析を統合し、自動車業界のデジタルトランスフォーメーションを支える

ユースケースに学ぶ: 車種別損益・連結管理からESGまで段階的に進化する経営管理



## エグゼクティブサマリー

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えています。電動化、自動運転、コネクテッドカー、そしてSDV(Software Defined Vehicle) といった技術革新に加え、地政学リスク、資材価格の変動、CO2排出規制、ESG開示義務の強化など、事業環境はかつてないほど複雑化しています。

本ホワイトペーパーでは、自動車業界における経営管理の課題と、CCH Tagetikを活用した解決アプローチを5つの具体的なユースケースで示し、その効果を明らかにします。

---

# 目次

## 第1章

はじめに:

自動車業界に求められる経営管理の変革

---

## 第2章

CCH Tagetikとは:

統合経営管理プラットフォームの全体像

---

## 第3章

段階的な導入アプローチ:

車種別損益から全社最適へ

---

## 第4章

ユースケース集:

実践から学ぶ5つのシナリオ

---

## 第5章

まとめ:

次世代の経営管理基盤へ

# はじめに:

# 自動車業界に求められる経営管理の変革 自動車業界を取り巻く環境変化

前述の環境変化により、自動車メーカーの経営管理には従来とは質的に異なる課題が生じています。

## 1 自動車業界を取り巻く構造的変化

自動車業界は、需要・供給の両面で構造的な変化に直面しています。

需要側面では、販売台数がグローバルでピークを迎え、「作れば売れる」時代は終焉しています。車両は単なる移動手段から、ソフトウェアやサービスを含む「モビリティ」へと進化し、所有から共有へのシフトも進んでいます。車両販売に加えて、サブスクリプションやサービスビジネスといった新たな収益源が拡大しています。

供給側面では、保護主義的政策により生産立地戦略の前提が揺らいでいます。製品構成においても、ソフトウェア開発・生産の比重が急速に高まり、バッテリーメーカーや半導体メーカーの存在感が増しています。技術者離れによる開発コスト増大、環境規制・安全規制の強化による企業維持コストの増大も、経営を圧迫しています。

## 2 経営管理への影響

これらの構造変化は、経営管理のあり方を根本から変えています。

関税変動や市場環境の急変に対して、複数シナリオで財務インパクトを能動的に把握する必要が高まっています。プロダクト販売からソフトウェア・サービスビジネスへの転換により、初期投資とサブスクリプション回収という新たな収益モデルへの対応が求められるケースもあります。台数が伸びない中での収益確保には、車種・グレード別の収益性分析と、儲からない車種からの撤退判断が不可欠です。また、環境投資やESG投資において、財務視点だけでなく人員リソースも含めた投資判断が必要になっています。

### 3 求められる経営管理の変革

このような環境下で、自動車業界には以下の変革が求められています。



#### 統合データ基盤による情報サイロの解消

車種別損益、グローバル連結、税務、GHG排出量といった各領域が個別管理され、データが分断されている状況では対応できません。多様な収益源と複雑なコスト構造を統一的に管理し、財務業績とGHG排出量を同一基盤で分析できる環境が必要です。



#### 予測・シミュレーション能力の強化

「関税が上昇した場合の生産拠点切り替え」「EVの市場浸透が想定を下回った場合の投資回収」「サブスクリプションモデルでの初期投資回収期間」といった複数シナリオを迅速にシミュレーションできる能力が求められています。



#### リアルタイム経営の実現

月次決算による後追い管理では対応が遅れます。各国拠点からのデータを日次・週次で収集し、グローバル全体の車種別損益を常に最新の状態で把握する必要があります。



#### 業界特有の管理要件への対応

サブスクリプションやサービス収益を含めた車種別収益管理、管理連結と制度連結の統合、グローバルミニマム課税への対応、Scope1/2/3の統合的なGHG管理といった、業界特有の要件に対応する必要があります。

これらの変革を実現するためには、統合経営管理プラットフォームが不可欠です。次章では、これらの要件を満たすソリューションとして、CCH Tagetikの特徴と自動車業界での活用事例をご紹介します。

## 第2章

# CCH Tagetik とは: 統合経営管理プラットフォームの全体像

CCH Tagetik は、財務・非財務情報をワンプラットフォームに統合し、経営・事業・現場をデータでつなぐグローバル経営管理基盤です。

### プラットフォームの全体構成

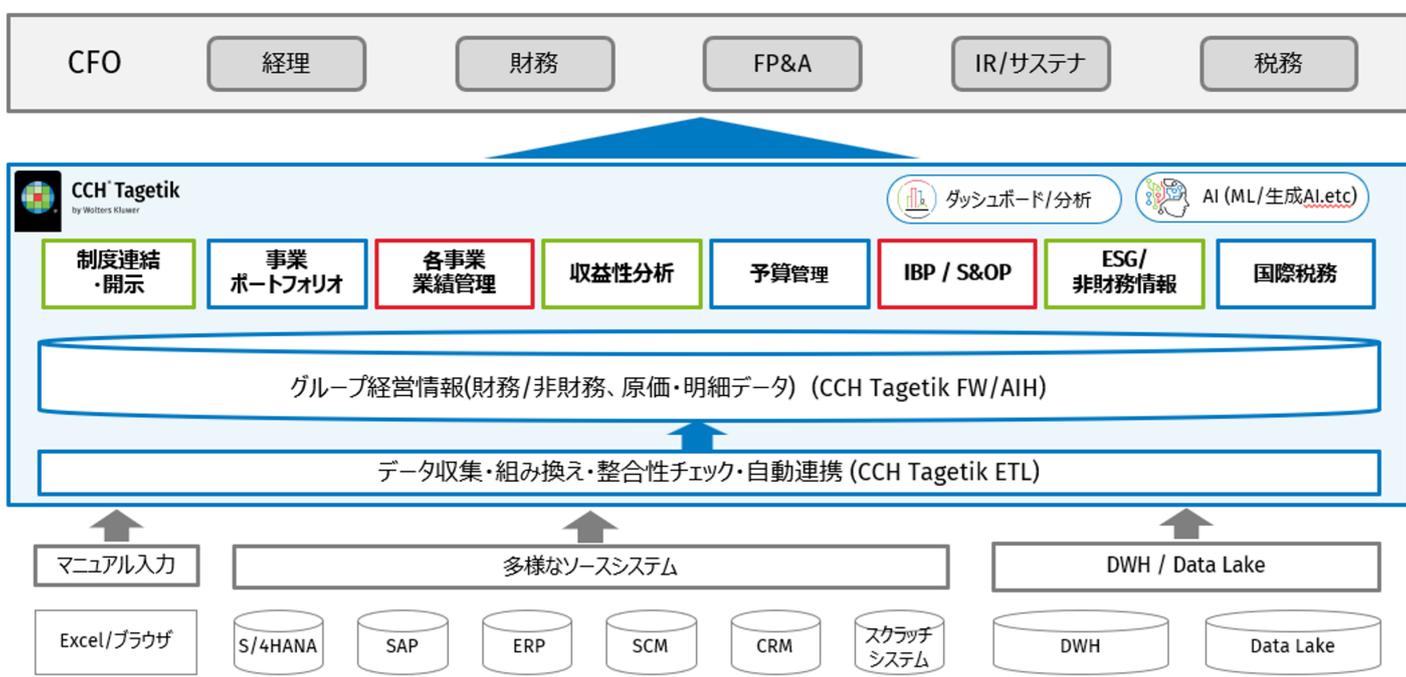


図 1: 統合経営管理を支えるCCH Tagetik Intelligent Platform

## 主な特長



### 統合性

- 管理会計から連結会計、税務、ESGまで同一プラットフォームで管理
- 財務・非財務データの一元管理により、Single Source of Truth(単一真実源)を実現



### 拡張性

- 必要な領域から段階的に導入可能
- 既存システムを活かしながら拡張できる柔軟なアーキテクチャ



### Expert AI 搭載

**Ask AI:**「生成AI」による自然言語でのデータ検索と分析。質問を投げかけるだけで、即座に洞察を獲得

**Intelligent Disclosure:**開示資料・内部管理資料作成の自動化とAIによる品質チェック。注記情報や開示文書の作成を効率化

**Intelligent Analytics with Ask AI and Excel 365 Add-in:** Microsoft Excelから直接CCH Tagetikのデータにアクセスし、アドホック分析を実行。使い慣れたExcel環境で高度な分析が可能

#### Automation と Anomaly Detection:

- **AI Automapping:** データソースとターゲットの関連付けをAIが自動提案し、データ統合を加速してガバナンスを確保
- **AI Anomaly Detection:** 統計的アプローチにより外れ値を事前に分離・管理し、モデリングや計算に用いるデータの信頼性を確実に。

**AI-Powered Data Governance と Predictive Intelligence:** 以下の機能を通じて、より正確な意思決定を実現

- **Predictive Intelligence:** 説明可能性を備えた機能により、なぜその予測結果に至ったのかを明確にし、実行可能なインサイトを提供することで、予測の精度・スピード・透明性を飛躍的に向上。
- **AI Driver-Based Analysis:** データの背後にある重要なビジネスドライバーを可視化・特定し、データ探索から収益性分析、差異分析、レポートニングまでを迅速に推進。



### グローバル対応

- 多通貨・多言語・多会計基準に対応
- 各国規制への準拠 (IFRS、CSRD、Pillar Two等)



### システム連携

- SAP S/4HANAをはじめとする各種ERPとのシームレス連携
- 充実したインターフェース (DB連携、ファイル連携、API等)

## 第3章

# 段階的な導入アプローチ: 車種別損益から全社最適へ

CCH Tagetikは、柔軟な導入アプローチが可能なプラットフォームです。貴社の経営課題の緊急性や優先順位、投資計画に応じて、複数領域を同時に展開することも、特定領域から段階的に拡大することも可能です。

### 推奨導入ロードマップ

フェーズ	対象領域	主な機能	期待効果
<u>Phase 1</u> • 管理会計 • 累積損益	<ul style="list-style-type: none"><li>車種別連結損益分析</li><li>予算実績管理</li><li>コスト人材リソース管理</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>多次元分析(車種×地域×グレード等)</li><li>グループ会社データ収集ワークフロー</li><li>ERP連携</li><li>人員管理</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>製品ポートフォリオ最適化</li><li>グループ全体の業績をリアルタイムで把握</li><li>子会社のガバナンス強化</li><li>人材リソース配置最適化</li><li>業務効率化(Excel脱却)</li></ul>
<u>Phase 2</u> • 管理連結 • 制度連結 • 開示業務	<ul style="list-style-type: none"><li>管理連結(経営判断用)</li><li>制度連結(IFRS/日本基準)</li><li>単体決算支援</li><li>開示資料作成</li><li>監査証跡管理</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>連結パッケージ自動生成</li><li>監査証跡の完全保持</li><li>明細レベルまでドリルダウン</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>管理と制度の整合性確保</li><li>決算期間の大幅短縮</li><li>開示品質向上</li><li>データの信頼性向上/保証業務への対応</li><li>すべての数値の完全なトレーサビリティ</li><li>監査対応工数の削減と品質向上</li></ul>
<u>Phase 3</u> • 国際税務	<ul style="list-style-type: none"><li>Pillar Two対応</li><li>国別報告書(CbCR)</li><li>税務シミュレーション</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>GloBEルール準拠計算</li><li>連結データ活用</li><li>投資シナリオ分析</li><li>税務レポート自動生成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>税務コンプライアンス強化</li><li>タックスリスク低減</li><li>税務戦略最適化</li><li>投資判断時の税務影響評価</li></ul>

フェーズ	対象領域	主な機能	期待効果
Phase 4 <ul style="list-style-type: none"> <li>ESG統合</li> <li>収益性の最適化と計画立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量管理 (Scope1/2/3)</li> <li>ESG開示(TCFD/ISSB/CSRD)</li> <li>財務非財務データ統合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数開示基準対応</li> <li>GHG自動計算</li> <li>財務データとの統合分析</li> <li>既存システム連携 (ERP/エネルギー管理等)</li> <li>ESGシナリオプランニングおよび目標設定</li> <li>ドライバーに基づく収益性モデリングとWhat-if分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務非財務統合による中長期ポートフォリオ最適化</li> <li>投資判断へのESG要素統合</li> <li>財務非財務統合レポート作成</li> <li>ESGデータの信頼性確保/第三者保証対応</li> <li>ESG評価向上</li> <li>企業価値向上</li> <li>データドリブンなESG目標管理</li> <li>シナリオ分析を通じた最適な製品構成と収益性向上</li> </ul>

図 2: 段階的な導入アプローチ

段階的な導入アプローチで、どのフェーズからの導入をご選択いただいたとしても、最終的には同じ統合プラットフォームを構築できます。CCH Tagetikの拡張性により、貴社の状況に最適な導入戦略を選択できます。



---

## 第4章

# ユースケース集: 実践から学ぶ5つのシナリオ



# ユースケース 1 車種別・グレード別収益管理の可視化

## 対象領域

管理会計 (Phase 1)

## 典型的な課題

自動車メーカーでは、以下のような収益管理上の課題を抱えています。

### → 収益性の不透明性

- グレード・オプション別の収益性が不明確
- 累積損益管理が困難で、車種別ROIが図りにくい
- どの製品・仕様が利益を生んでいるのか判断が困難
- 製品戦略の意思決定に時間がかかる

### → リソース配分の最適化困難

- 開発プロジェクトの優先順位付けが難しい
- 財務インパクトを踏まえた判断ができない
- 投資回収状況が見えず、最適配分ができない

### → データ収集・分析の非効率性

- 手作業での収集・集計
- 整合性確認に工数がかかる
- タイムリーな分析ができない
- 多軸分析やシミュレーションができない

## CCH Tagetik による解決アプローチ

### → 導入範囲

- 予算実績管理
- 車種別・グレード別損益分析
- コスト管理・原価管理
- 採算管理・収支管理

### → 主な実装機能

#### 1. データモデルの設計

- 製品階層: ブランド → 車種 → グレード → オプション
- 組織階層: 本社 → 地域 → 販売会社 → 拠点
- 多次元分析を可能にするデータ構造

#### 2. ERP連携

- 販売データ、原価データの自動連携
- データ整合性チェックの自動化
- リアルタイムまたは日次でのデータ更新

#### 3. ワークフロー

- 各部門からの予算・見通しデータ入力
- 段階的な承認フロー
- バージョン管理 (初期予算、修正予算、見通し等)

#### 4. レポート・ダッシュボード

- 車種別損益レポート
- グレード別・オプション別収益分析
- 予実差異分析 (ウォーターフォールチャート等)
- 経営ダッシュボード (KPI可視化)

## 期待される効果

### → 業務効率化

- データ収集・集計作業の大幅な効率化
- レポート作成時間の短縮
- Excel業務からの脱却

### → 経営判断の高度化

- グレード別収益性の可視化で、製品戦略を最適化
- 多軸分析で、地域別・チャネル別の戦略立案を可能に
- リアルタイムデータ分析で、迅速な意思決定を実現

### → 戦略業務へのシフト

- 定型業務の自動化で、分析・企画業務へ注力
- シミュレーション機能で、複数シナリオの評価が可能に

# ユースケース 2

# グローバル経営管理プラットフォームの構築

## 対象領域

連結会計 (phase 2)

## 典型的な課題

グローバルに事業展開する自動車メーカーでは、以下の課題が顕在化しています。

### → システムの分散

- 管理連結と制度連結が別システムで運用され、データの整合性確保に手間がかかる
- 地域ごとに異なるシステムを使用し、全社統一が困難
- データ標準が統一されていない

### → 決算業務の非効率性

- 決算に長期間を要する
- 子会社からのデータ収集に時間がかかる
- 監査対応に膨大な工数が必要

### → グループガバナンスの課題

- グループ全体での最適配分が困難
- リスク管理体制が不十分

## CCH Tagetik による解決アプローチ

### → 導入範囲

- 管理連結 (経営判断用)
- 制度連結 (法定開示用)
- グループレポート

### → 主な実装機能

#### 1. グローバル統一基盤

- 全地域・全子会社で同一プラットフォームを使用
- マスタデータの統一管理
- 多通貨・多言語・複数会計基準対応

#### 2. 同一基盤での管理連結と制度連結の統合

- 共通データベースの活用により、データの整合性を担保
- 管理会計と財務会計の差異を明確化

#### 3. 管理会計と財務会計の差異調整の自動化と、子会社データ収集の効率化

- 子会社システムからのETL連携
- Webフォームによる直接入力
- 連結決算プロセスの可視化・統制
- 標準機能としてのバリデーションチェック
  - データ整合性チェック
  - 必須項目チェック異常値検知

#### 4. 監査証跡の整備

- すべての仕訳にドリルダウン可能な明細データ保持
- 変更履歴の自動記録
- 監査レポートの自動生成

#### 5. 分析の効率化

- 前年度、予実対比分析における明細ドリルダウン
- ユーザーによるレポート作成・分析機能提供
- AIを活用したデータ探索・アドホック分析

## 期待される効果

### → 決算業務の効率化

- 決算期間の大幅短縮
- 子会社からのデータ収集時間の削減
- 連結仕訳の自動化

### → データ品質の向上

- 管理連結と制度連結の整合性確保
- データの透明性向上
- 監査対応の品質向上

### → グループガバナンスの強化

- グループ全体の経営状況をリアルタイムで把握
- 子会社の業績管理体制の強化
- リスク管理の高度化

# ユースケース 3 国際税務対応の効率化

## 対象領域

国際税務 (phase 3)

## 典型的な課題

グローバル展開する自動車メーカーは、国際税務において以下の課題に直面しています

### → グローバル・ミニマム課税 (BEPS Pillar Two) への対応

- 2024年から適用が開始され、対応が急務
- 複雑な計算ロジックの実装が困難
- シミュレーション機能がなく、影響額の把握ができない

### → 各国税務コンプライアンスの負担

- 各国で異なる税務要件への対応が必要
- 国別報告書 (CbCR: Country-by-Country Reporting) の作成が煩雑
- GIR (Globe Information Return) の作成対応が必要

### → 税務戦略の最適化

- グループ全体での税務最適化が困難
- シミュレーションができず、投資判断に時間がかかる
- タックスリスクの定量評価ができない

## CCH Tagetik による解決アプローチ

### → 導入範囲

- グローバル・ミニマム課税 (Pillar Two) 計算
- 国別報告書 (CbCR) ・GIR作成
- 税務シミュレーション

### 主な実装機能

#### → 1. Pillar Two対応 計算エンジン

- GloBE (Global Anti-Base Erosion) ルールに準拠した計算
- 各国の実効税率計算
- トップアップ税の自動計算
- IIR (所得合算ルール)、UTPR (軽課税所得ルール) 対応

#### 2. 連結データとの連携

- 制度連結データを基礎データとして活用
- 税務調整の自動化
- 多段階連結構造への対応

#### 3. シミュレーション機能

- 投資先・投資規模別の税務インパクト分析
- 組織再編シミュレーション
- What-if分析による税務戦略の最適化

#### 4. レポーティング

- BEPS Pillar Two情報開示レポート
- 国別報告書の自動生成

## 期待される効果

### → コンプライアンスの強化

- Pillar Two対応の早期実現
- 各国税務要件への確実な対応
- タックスリスクの低減

### → 業務効率化

- 税務計算の自動化
- CbCR作成の効率化
- 監査・当局対応の負担軽減

### → 戦略的意思決定の支援

- 投資判断時の税務影響を即座に評価
- グループ税務戦略の最適化
- タックスプランニングの高度化

# ユースケース 4 GHG排出量管理とESG統合基盤

## 対象領域

ESG・サステナビリティ (phase 4)

## 典型的な課題

自動車メーカーは、環境規制とESG開示要請の高まりを受け、以下の課題に対応する必要があります。

### → GHG排出量算定の非効率性

- 事業から排出するGHG排出量をExcelで算定している
- 各事業所からのデータ収集に時間がかかる
- データの正確性・整合性の確保が困難

### → 開示要請への対応

- TCFD、ISSB、CSRD、SSBJ等、複数の開示基準への対応が必要
- 基準ごとに異なる開示要件のキャッチアップや自社への適用
- 第三者検証への対応に工数がかかる

### → 経営への活用不足

- GHG排出量と財務データが分断されている
- 削減施策の効果測定が困難
- ESG情報を経営判断に活かせていない

## CCH Tagetik による解決アプローチ

### → 導入範囲

- ESG開示資料作成 (TCFD、ISSB、CSRD等)
- GHG排出量算定 (Scope1/2/3)
- サステナビリティレポート作成
- ESG目標設定・計画策定・KPI管理・進捗分析

### 主な実装機能

#### →

#### 1. データ収集基盤の構築

- 各事業所からのWebフォーム入力
- エネルギー管理システムとの自動連携
- ワークフローによる承認プロセス
- エビデンス (請求書等) の添付・管理機能

#### 2. GHG排出量計算エンジン

- Scope1/2/3の自動計算
- 排出係数の自動適用
- 車種別・拠点別・工場/ライン別の算定
- 排出量トレンド分析

#### 3. データ品質管理

- 異常値検知機能
- データ整合性チェック
- 変更履歴管理
- 第三者保証対応レポート

#### 4. 財務データとの統合

- 売上高あたり排出量 (原単位) の算出
- 削減施策の投資対効果分析
- ESGと財務パフォーマンスの相関分析

#### 5. 開示レポート自動生成

- TCFD対応レポート
- ISSB対応レポート
- CSRD対応レポート

## 期待される効果

### → 業務効率化

- データ収集・算定作業の効率化
- Excel業務からの脱却
- 開示資料作成の効率化

### データ品質の向上

#### →

- エビデンスに基づく正確なデータ管理
- 第三者検証への円滑な対応
- データの透明性・トレーサビリティの確保

### 経営判断への貢献

#### →

- GHG排出量の可視化により、削減施策の優先順位を明確化
- 財務データとの統合により、削減施策の投資対効果を評価
- 複数の開示基準に効率的に対応
- ESG評価の向上に貢献

# ユースケース 5 データドリブン経営への完全移行

## 対象領域

統合経営管理基盤 (Phase 1-4の統合)

## 統合プラットフォームの価値

このユースケースは、Phase 1からPhase 4までを段階的に実装し、最終的に統合経営管理プラットフォームを完成させた姿を示しています。

## 統合による効果

### → データ統合の効果

- ・ 財務・非財務データの一元管理
- ・ Single Source of Truth (単一真実源) の確立
- ・ データの整合性が自動的に担保
- ・ 横断的な分析が可能に

### → 業務効率化の効果

- ・ データ入力の一本化 (重複入力の排除)
- ・ レポート作成の自動化
- ・ 部門間のデータ連携が不要に
- ・ 定型業務の大幅削減

### → 経営判断の高度化

- ・ リアルタイムでの経営状況把握
- ・ 多角的な分析 (財務×非財務、車種×地域×ESG等)
- ・ AIによる予測・シミュレーション
- ・ シナリオ分析による意思決定支援

## 統合プラットフォームの活用例

### → 新車種投資の意思決定

- ・ 車種別損益データ + GHG排出量データ + 税務影響を統合分析
- ・ 投資シナリオ別のシミュレーション
- ・ 財務リターンとESG効果の同時評価
- ・ 迅速かつ総合的な投資判断

### → 地域戦略の最適化

- ・ 地域別収益性 + 現地規制 + 市場動向を統合分析
- ・ 製品ポートフォリオの最適配分
- ・ リソース配分の意思決定

### → サステナビリティ戦略の立案

- ・ GHG削減目標 + 財務インパクト + 技術投資を統合分析
- ・ 削減施策の優先順位付け
- ・ 2030/2050年目標に向けたロードマップ策定

## 第5章

# まとめ： 次世代の経営管理基盤へ

本ホワイトペーパーでは、自動車業界における経営管理の課題と、CCH Tagetikを活用した5つのユースケースをご紹介します。これらのユースケースから、いくつかの重要な示唆が得られます。



### 段階的アプローチの有効性

- 一度にすべてを実装する必要はありません
- 効果の高い領域から始め、徐々に拡大することで投資対効果を最大化
- 各フェーズで効果を確認しながら進められます



### 統合プラットフォームの価値

- 財務・非財務データの一元管理により、データの整合性を担保
- 横断的な分析による新たな洞察の獲得
- データドリブン経営の実現



### 自動車業界特有の課題への対応

- 車種別収益管理の高度化（詳細損益分析、累積損益・ROI管理）
- グローバル連結管理の効率化
- 国際税務対応の自動化（Pillar Two等）
- ESG/GHG管理の統合



### AIによる経営判断の高度化

- Ask AIによる自然言語分析
- 予測分析・シミュレーション
- 異常検知による品質向上

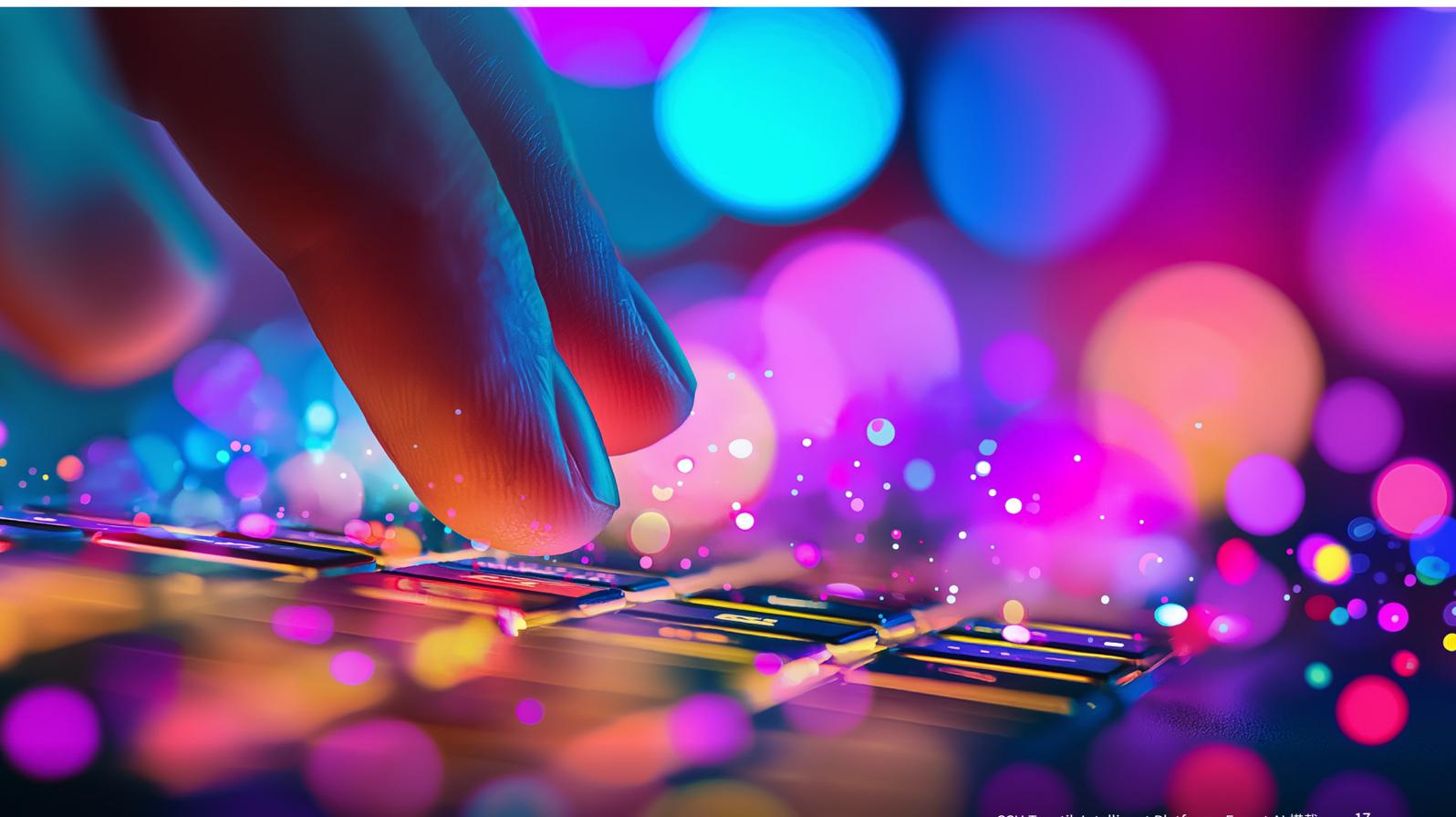
## CCH Tagetikが選ばれる理由

CCH Tagetikは、世界で2,000社以上の企業に導入されており、自動車業界においても豊富な導入実績を持っています。



図3: グローバルで2,000以上の顧客

この実績が示すように、CCH Tagetikは単なる経営管理ツールではなく、企業の戦略的変革を支えるパートナーとして機能しています。他のCPMソリューションと比較して、以下のような強みがあります。





### 拡張性

- 段階的な導入が可能
- 既存システムとの共存
- 将来の拡張を見据えた柔軟なアーキテクチャ



### グローバル対応

- 多通貨・多言語・多会計基準
- 各国規制への対応 (IFRS、CSRD、Pillar Two等)
- グローバル統一基盤の構築が可能



### AI活用

- 生成AI「Ask AI」による自然言語分析
- 予測分析・シミュレーション機能
- 継続的な機能強化

## 次のステップ

多くの企業では、CCH Tagetikの導入にあたり、まず現状の課題や優先事項を整理されています。貴社が直面されている課題や、期待される効果について、ぜひお聞かせください。これまでの導入事例や業界のベストプラクティスを踏まえながら、貴社に最適なアプローチをご提案いたします。



#### Step 1: 現状課題の整理

- 最も緊急性・重要性の高い課題は何か
- どの領域から始めるべきか
- 期待する効果は何か



#### Step 2: ソリューションの理解

- CCH Tagetikの機能紹介
- デモンストレーション
- 他社事例のご紹介



#### Step 3: 導入計画の策定

- フェーズ分けの決定
- 投資計画の策定
- 推進体制の検討



#### Step 4: PoC (概念実証) の実施

- 小規模での試行
- 効果の検証
- 本格導入の判断

## 最後に

自動車業界が持続可能な成長を遂げるためには、変化の激しい市場に即応できる俊敏な経営管理体制が欠かせません。

CCH Tagetikは、グローバル経営の複雑さを解消し、財務とオペレーション、さらにはESG・GHG排出量等の非財務情報をシームレスにつなぐ統合プラットフォームとして、企業の次世代経営を支えます。

本ホワイトペーパーでご紹介した5つのユースケースが、貴社の経営管理変革の参考になれば幸いです。

## お問い合わせ

貴社の経営課題に対して、CCH Tagetikがどのように貢献できるか、ぜひ一度お気軽にご相談ください。

## お問い合わせ方法

Webサイト [www.wolterskluwer.com/ja-jp/solutions/cch-tagetik](http://www.wolterskluwer.com/ja-jp/solutions/cch-tagetik)

LinkedIn [www.linkedin.com/company/tagetik-japan](http://www.linkedin.com/company/tagetik-japan)



## ご提供できるサポート

業界特有の課題に対する解決アプローチのご説明

貴社の現状課題に基づくソリューション提案

段階的な導入計画のご提案

実際の操作画面を用いたデモンストレーション

他社事例のご紹介

PoC (概念実証) のご支援

## ウォルターズ・クルワーについて

ウォルターズ・クルワー (EURONEXT:WKL) は、医療、税務・会計、ガバナンス、リスク管理とコンプライアンス、法務・規制、経営管理・ESGの各分野における専門情報、ソフトウェアソリューションとサービスのグローバルリーダーです。

深い専門知識とテクノロジー・サービスを組み合わせた専門的ソリューションを提供することで、お客様が日々重要な意思決定を行えるように支援しています。

ウォルターズ・クルワーは、2024年に59億ユーロの年間売上高を計上しました。同グループは180カ国以上の顧客にサービスを提供し、40カ国以上で事業を展開、全世界で約2万1,600人を雇用しています。本社はオランダのアルフェン・アン・デン・レインにあります。

For more information, visit [www.wolterskluwer.com](http://www.wolterskluwer.com), follow us on [LinkedIn](#), [Facebook](#), [YouTube](#) and [Instagram](#).

Visit CCH® Tagetik website



**CCH® Tagetik**  
by Wolters Kluwer